

使用テキスト

配本年度

『発達障害児の病理と心理 改訂版』(培風館)

2011 年度～

科目概要

知的発達障害、特異的発達障害を認知機能や脳機能と絡めながら発達障害児の生理および病理学的な基礎を解説し、発達性および獲得性の知的発達障害とその障害機序を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害を引き起こす原因を理解する。
2. 脳の機能とその障害を理解する。
3. 代表的な障害の病理を理解する。
4. 障害を認知神経心理学(認知機能)から捉えることを学ぶ。
5. 発達障害の鑑別診断法を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義・分類・原因・診断を理解する。
2. 染色体異常を理解する。
3. 脳の構造と機能を理解する。
4. 代表的な障害(知的障害・自閉症・ディスレクシア・ADHD・脳性麻痺)の定義を理解する。
5. 発達障害の鑑別を認知神経心理学的な検査法を通して理解する。

参考文献

『ことばとこころの発達と障害』(永井書店)

『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』(永井書店)

『発達障害のアセスメントとケーススタディ』(学文社)

評価基準

■ レポート評価

- ① 科目の到達目標をきちんとレポートにまとめられているか。
- ② 具体的な事例やデータを基に説明されているか。
- ③ 使用されている用語が正しく理解されているか。

以上の観点から評価します。

■ 科目終了試験評価

- ① 問題の意味を理解し専門用語の定義が正しく説明できることが重要である。
- ② 特に学習の到達目標の各節から均等に出题するために、それぞれの学習要点事項を整理し理解することが必要である。
- ③ 試験の準備として、レポート課題と科目の学習要点事項の内容について理解を深めておくこと。